

田畑区長コメント

私の区長公募論文は、同和地区名を明記し、開発の遅れや安全性に関するネガティブなイメージなどと論証なく結び付けて記述しており、差別を助長する内容であったと認識しています。

第1次面接の際に、面接官から、同和地区として具体的な地域名を記述していること、また、当該地域を暗いイメージなどと論証なく結び付けており、差別を助長する不適切な表現であると指摘を受けました。

指摘の内容について理解し、面接の際にもお詫びいたしました。私の認識の至らなさにより、差別を助長する内容を含んだ文書を流布する結果となり、当該地域にお住まいの方々を傷つけることになったことに対し深くお詫び申し上げます。

論文を作成する際にはインターネットで様々なことを調べました。大阪市のホームページも調べましたが、諸課題についていろいろ調べたことをアピールするため、市のホームページの内容は引用しませんでした。

自分自身では暗い印象は持っていませんでしたが、インターネットで調べた情報や、自分が現地で地元の方々の意見を聞くなどして調べた情報を総合して、ネガティブなイメージを持たれていると判断してしまいました。

そのため、駅前に商業施設といった大規模開発をすすめていくことで、人々のネガティブなイメージが少しでも払拭されるのではないかと考え、論文を作成しました。

論文につきましては、面接官からご指摘をいただき、差別を助長する不適切な表現があると認識しましたので、市から修正の指示があれば論文を修正するつもりでありましたが、選考を受けている立場であり、自分から訂正することはできないと思っていました。

結果として、修正をすることなく市のホームページに掲載されることとなり、差別を助長する論文が公表されたことについて、申し訳なく思っています。

この間、さまざまなご批判、ご指摘、また、有識者からの厳しいご指摘をいただく中で、私の情報収集の偏り及び不十分さ、並びにエリア開発のみでは課題の解決は図れないと深く反省をするとともに、これまで以上に同和地区に対する差別はあってはならない、差別をなくしていかなければならないと認識を新たにしているところです。

同和問題についての認識不足を痛感しており、自らの表現のつたなさにより、差別を助長する不適切な表現となり、大変申し訳なく深くお詫びを申し上げます。今回のことを真摯に反省し、区長という立場になって、同和問題をはじめあらゆる差別はあってはならない、そして、差別をなくしていかなければならないとこれまで以上に認識し、一人ひとりの区民、市民の人権を尊重する視点をしっかり持って区政の推進に努めてまいります。